弥生時代

名前

問1　弥生時代に稲作が普及すると、土地や水の利用をめぐる集団間の争いが起こるようになりました。こうした外敵の攻撃から集落を守るために、周囲に深い堀や柵を巡らせた当時の集落の形態を何といいますか。（2021年 愛知県公立入試 類似）

1. 高床倉庫
2. 環濠集落
3. 高地性集落
4. 竪穴住居

問2　日本列島と朝鮮半島の位置関係を示した地図において、九州地方の北部（現在の佐賀県付近）に位置し、大陸との交流や当時の防御の様子を今に伝える弥生時代の代表的な遺跡はどれか、選びなさい。（2020年 和歌山県公立入試 類似）

1. 岩宿遺跡
2. 三内丸山遺跡
3. 登呂遺跡
4. 吉野ヶ里遺跡

問3　5世紀、倭の五王が中国の南朝である「宋」へたびたび使者を送った目的として、当時の東アジア情勢を踏まえた説明として最も適切なものはどれか。（2016年 岐阜県公立入試 類似）

1. 福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の金印を、宋の皇帝に返還するため。
2. 遣隋使の派遣に先立ち、中国の進んだ律令制度や仏教を日本に導入する許可を得るため。
3. 邪馬台国内での争いを鎮めるために、中国の強力な軍隊を日本国内へ招き入れるため。
4. 朝鮮半島における軍事的な指揮権や外交的な立場を、中国の皇帝に公認してもらうため。

問4　1世紀半ば、日本の小国の一つであった奴国の王が、中国の王朝である後漢へ使者を送った時期の社会状況として、最も適切なものはどれですか。（2022年 愛媛県公立入試 類似）

1. 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐる集落間の争いが起こるようになった。
2. 仏教による国家の安定を図るため、聖武天皇の命によって全国各地に国分寺や国分尼寺が建立された。
3. 狩猟や採集を生活の中心とし、ナウマンゾウなどの大型動物を追って移動を繰り返す生活を送っていた。
4. 巨大な前方後円墳が築造されるようになり、その周囲には死者を供養するための埴輪が並べられた。

問5　弥生時代の遺跡からは、中央に2つの穴が開いた半月形の石器が数多く出土します。この道具を用いた当時の収穫方法と、その特徴について説明したものとして最も適切なものを選びなさい。（2024年 秋田県公立入試 類似）

1. 複数の石器を組み合わせて土を掘り起こし、田植えの前の耕作に使用していた。
2. 石器の鋭い側面を使い、脱穀のために稲の茎から籾をこすり落としていた。
3. 穴に長い木の柄を取り付け、稲を根元から一気に刈り取る「根刈り」を行っていた。
4. 穴に紐を通して指にかけ、熟した稲の穂先のみを摘み取る「穂首刈り」を行っていた。

問6　7世紀初め、推古天皇の摂政であった聖徳太子は、小野妹子を遣隋使として中国の隋へ派遣しました。その際、中国の皇帝に宛てた手紙の中で「日出づるところの天子、書を日没するところの天子に致す…」という有名な一節を記しました。この外交姿勢の背景にある、従来の中国との関係からの変化について、正しい説明を選びなさい。（2024年 宮崎県公立入試 類似）

1. 中国の皇帝からの称号を拒否し、完全に国交を断絶して鎖国体制を築こうとした。
2. 中国の皇帝に対して臣下として従う従来の形式をとりつつも、対等な立場での外交を目指そうとした。
3. 中国の皇帝に対して朝貢を一切行わず、民間商人による自由貿易のみを求めるようになった。
4. 日本の天皇を中国の皇帝よりも上位に位置づけ、中国を日本の属国にしようとした。

問7　弥生時代に本格的に始まった稲作において、実った稲の穂先のみを摘み取って収穫するために使われた磨製石器を何というか。（2016年 奈良県公立入試 類似）

1. 石包丁
2. 石鏃
3. 打製石斧
4. 石匙

問8　弥生時代の代表的な遺跡である佐賀県の吉野ヶ里遺跡について、その集落の構造を説明した記述として最も適切なものを次から選びなさい。（2023年 佐賀県公立入試 類似）

1. 大規模な公共事業を行うため、周囲の山を削って平地を作り、規則正しく住居が並んでいる。
2. 収穫した稲をネズミや湿気から守るため、床を高くした高床倉庫が集落の中心に配置されている。
3. 外敵の侵入や攻撃を防ぐため、集落の周囲に深い溝（濠）を掘り、さらに柵を巡らせている。
4. 交易を円滑にするため、海岸線に沿って長い石垣が築かれ、港の機能を中心としている。

問9　長崎県壱岐市の「原の辻遺跡」は、大規模な環濠集落を特徴とし、中国の歴史書に登場する「一支国（いきこく）」の王都とされています。この一支国も含まれる当時の倭国の様子や、女王卑弥呼が中国へ使者を送った出来事について詳しく記されている書物はどれですか。（2017年 長崎県公立入試 類似）

1. 『宋書』倭国伝
2. 『後漢書』東夷伝
3. 『魏志』倭人伝
4. 『漢書』地理志

問10　「漢書」地理志や「魏志」倭人伝などの中国の歴史書には、倭の女王である卑弥呼や、それ以前の倭の小国の王が、中国の皇帝に使者を送ったことが記されています。このような古代の日中外交において、日本の支配者が中国の皇帝から称号を授かろうとした主な目的として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 宮崎県公立入試 類似）

1. 中国国内でのキリスト教の布教を許可してもらい、宗教的な指導者としての地位を確立するため。
2. 中国の強力な武力や権威を背景に、日本国内の他の勢力に対して自らの支配の正当性を示すため。
3. 中国の皇帝から直接的に領土を譲り受け、日本列島を中国の行政区画の一部として統治するため。
4. 中国の皇帝と対等な立場で軍事同盟を結び、高句麗や新羅を共同で攻撃するための約束を取り付けるため。

問11　縄文時代に続く弥生時代に使われた土器は、それ以前の縄文土器と比べて薄くて硬く、赤褐色をしていることが多いという特徴があります。この土器の名称として正しいものはどれか。（2016年 鳥取県公立入試 類似）

1. 須恵器
2. 土師器
3. 弥生土器
4. 黒色土器

問12　福岡県の志賀島で発見された、「漢委奴国王」と刻まれた金印に関する記述として、当時の外交関係を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 長崎県公立入試 類似）

1. 聖徳太子が小野妹子を派遣した際、隋の皇帝から対等な外交の証として贈られたものである。
2. 邪馬台国の女王である卑弥呼が、魏の皇帝から親魏倭王の称号とともに授けられたものである。
3. 室町幕府の足利義満が、明の皇帝から日本国王として認められた際に授かったものである。
4. 中国の王朝である漢（後漢）の皇帝が、倭の奴国の王に与えたものである。

問13　弥生時代の遺跡からは、稲作に関連する様々な道具や施設が発見されています。収穫した稲の穂首を摘み取るために用いられた石器と、穀物を湿気やネズミなどの害獣から守るために床を高くした貯蔵用の施設の組み合わせとして、正しいものはどれですか。（2017年 岡山県公立入試 類似）

1. 石包丁と高床倉庫
2. 石包丁と竪穴住居
3. 和同開珎と高床倉庫
4. 銅剣・銅矛と高床倉庫

答え合わせ・解説

問1	答え 2 環濠集落	稲作の開始によって収穫物の貯蔵が可能になり、富をめぐる集団間の対立が発生しました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表されるように、当時の人々は居住区の周囲に堀（環濠）を掘ったり、木の杭による柵を設けたりすることで、外部からの侵入を防ぐ工夫をしていました。これが環濠集落です。
問2	答え 4 吉野ヶ里遺跡	弥生時代に現在の佐賀県に築かれた、大規模な環濠集落（かんごうしゅうらく）の跡です。物見やぐらや二重の濠、大規模な墳丘墓などが発見されており、クニの成立過程や大陸との交流を研究する上で極めて重要な遺跡です。静岡県の登呂遺跡や青森県の三内丸山遺跡とは所在地や時代、特徴が異なります。
問3	答え 4 朝鮮半島における軍事的な指揮権や外交的な立場を、中国の皇帝に公認してもらうため。	5世紀の倭（ヤマト政権）は、国内の統一を進めるとともに、鉄資源の確保などを求めて朝鮮半島への進出を強めていました。倭の五王は、朝鮮半島における百済や加耶（加羅）に対する軍事的な影響力や外交的な地位を中国の皇帝に認めてもらう（官爵を得る）ことで、他国や国内の諸勢力に対して自らの正当性を主張しようとしました。
問4	答え 1 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐる集落間の争いが起こるようになった。	紀元前後の弥生時代には、大陸から稲作技術や金属器（青銅器・鉄器）が伝来し、生産力が向上しました。これに伴い、余剰生産物の蓄えや水田に適した土地をめぐって集落同士の争いが発生し、各地に小国が形成されました。奴国の王が後漢の光武帝に使者を送り「漢委奴国王」の金印を授かったのは、こうした国内の勢力争いの中で中国の王朝を後ろ盾にしようとする意図があったと考えられています。
問5	答え 4 穴に紐を通して指にかけ、熟した稲の穂先のみを摘み取る「穂首刈り」を行っていた。	当時の稲は現在の品種とは異なり、一斉に実るのではなく時期にばらつきがあったと考えられています。そのため、石包丁を用いて熟した穂だけを丁寧に選んで摘み取る「穂首刈り」という収穫方法がとられていました。中央の2つの穴は、作業中に道具が手から落ちないよう、植物の繊維などで作った紐を通して指に固定するための工夫です。
問6	答え 2 中国の皇帝に対して臣下として従う従来の形式をとりつつも、対等な立場での外交を目指そうとした。	それまでの朝貢外交は、中国の皇帝を上位、周辺諸国の君主を下位とする主従関係が前提でした。しかし、聖徳太子が送った手紙は、日本の君主も中国と同じ「天子」という称号を用いることで、形式上の臣下という立場から脱却し、より対等に近い国際関係を築こうとする意図が含まれていました。これに対し、隋の煬帝は不快感を示しましたが、当時の朝鮮半島の情勢などもあり、日本との関係を維持しました。
問7	答え 1 石包丁	稲作が普及した弥生時代を代表する農具の一つです。当時は稲の品種が統一されておらず、一粒一粒の熟し方が異なっていたため、実ったものから順に摘み取る「穂首刈り」が行われていました。その際に使用されたのが、この磨製石器です。
問8	答え 3 外敵の侵入や攻撃を防ぐため、集落の周囲に深い溝（濠）を掘り、さらに柵を巡らせている。	弥生時代に稲作が普及すると、土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。集落を敵から守るために、周囲に「濠（ほり）」と呼ばれる深い溝を掘ったり、木製の「柵」を立てたりする防御的な構造が取られました。このような集落を「環濠集落」と呼び、佐賀県の吉野ヶ里遺跡はその大規模な例として知られています。
問9	答え 3 『魏志』倭人伝	3世紀の日本の社会情勢や地理、卑弥呼の統治については、中国の三国時代の歴史書「三国志」の一部である『魏志』倭人伝に記載があります。原の辻遺跡のような環濠集落の存在は、当時の倭国が多くの小国に分かれ、交易を行いながらも対立や防衛を繰り返していた社会状況を裏付けています。
問10	答え 2 中国の強力な武力や権威を背景に、日本国内の他の勢力に対して自らの支配の正当性を示すため。	当時の日本（倭）は多くの小国が並立しており、各勢力の首長は自らの支配力を誇示し、国内を安定させる必要がありました。先進文化を持つ中国（漢や魏など）の皇帝から「親魏倭王」のような称号や金印を授かることは、周辺勢力に対して「自分こそが正当な統治者である」と主張するための強力な裏付けとなりました。
問11	答え 3 弥生土器	弥生土器は、紀元前4世紀頃から始まった弥生時代に使用された土器です。縄文土器が厚手で、比較的低い温度で焼かれたのに対し、弥生土器はより高い温度で焼かれることで、実用性に優れた薄くて丈夫な作りになっています。
問12	答え 4 中国の王朝である漢（後漢）の皇帝が、倭の奴国の王に与えたものである。	この金印は、1世紀（紀元57年）に倭の奴国の王が中国の後漢へ使者を送った際、光武帝から授けられたものです。中国の歴史書『後漢書』東夷伝には、この出来事に関する記述があり、江戸時代に福岡県の志賀島で金印が実際に発見されたことで、当時の日本と中国の間に公的な外交関係があったことが証明されました。
問13	答え 1 石包丁と高床倉庫	弥生時代に始まった稲作では、磨製石器の一種である石包丁を用いて、稲の穂の部分だけを摘み取る「穂首刈り」が行われていました。また、収穫した穀物を安全に保管するため、風通しを良くして湿気を防ぎ、柱に「ネズミ返し」という板を取り付けてネズミの侵入を防ぐ工夫がなされた高床倉庫が作られました。